

横浜エフエム放送株式会社 番組審議会報告書

開催年月日 令和8年3月19日 木曜日 15時00分～15時40分

出席者 番組審議委員：宝田博士委員長、岡崎三奈副委員長、勝治雄委員、品田英雄委員、
横尾典克委員

FMヨコハマ：兒玉智彦代表取締役社長、久富一雄常務取締役兼デジタル推進室長、
筒井理編成部長、小林信子編成部マネージャー、伊藤潤編成部員

議題 ダウンビートの人々
(2026年2月15日(日) 20:00～21:00放送)

議事の内容 前回(令和8年2月19日開催)の番組審議会より本日まで訂正、取り消しの放送が、
なかったこと、また、放送内容に対する苦情・意見もなかったことを報告しました。
また議題の番組について、放送同録CDを聴いた後、各委員から感想、意見等を聞きました。

審議の内容 まず、議題「ダウンロードの人々」について、概要説明に入りました。

タイトル ダウンビートの人々
放送時間 2026年2月15日(日) 20:00～21:00
放送形態 録音番組
出演 ナレーション：島袋美由利
内容 1956年創業の横浜市中区、野毛にあるジャズ喫茶「ダウンビート」に焦点をあて、開局周年を
迎えたFMヨコハマが70年間のダウンビートの物語を紡ぎます。

【放送内容詳細】

昨今、日本の「ジャズ喫茶」文化は、欧米で流行している「リスニングバー」のルーツとして世界的に注目を集めています。サブスクリプションサービスが普及し、アルゴリズムやSNSを通じて手軽に新しい音楽と出会える時代になりました。しかし、ジャズ喫茶には「見知らぬ誰かと出会うはずのなかった音に身を委ねる」という、現場でしか味わえない音楽体験があります。この日本独自の文化が持つ普遍的な魅力を、本番組を通じて再確認し、発信しました。

開店以来引き継がれてきたスピーカー、アルテック(ALTEC)A7が奏でる至高のレコード音源とともにサクソ奏者であり批評家としても知られる大谷能生氏、横浜出身のミュージシャン・やけのはら氏をはじめ、ダウンビートに訪れる人々へインタビューした模様をお届けしました。

<ダウンビートで録音した音源での楽曲 OA>

本番組でオンエアする全ての楽曲は、「ダウンビート」が誇る伝説的スピーカー、アルテック(ALTEC)A7から流れる音を、ミハル通信株式会社が開発した22本のマイクユニット搭載「ELLマイクロフォン」を用いて贅沢に収録。同マイクロフォンが民放ラジオの本放送において採用されるのは、今回が初の試みとなります。さらに、高音質バイノーラルプロセッシング技術「HPL®」を搭載したミックスウェーブ社製「RA-6010-HPL」を採用することで、本来専用のスピーカー環境が必要な「22.2ch サラウンド」を、お手持ちのヘッドフォンやイヤフォンで再現。名機A7が放つ圧倒的な音圧と空気感までも、余すことなくお届けしました。



ELL マイクロフォン

<各委員講評>

- ◎ともすると、お店の紹介なのではないか？と思ってしまったが、よくよく聞いてみると人間模様が入っていて、奥深く作られている番組だと思った。
- ◎ちぐさというジャズ喫茶は知っていたが、ダウンビートは知らなかったもので、ジャズの歴史感を感じられた番組だった。ただ、もう少し、歴史的な背景などを説明したり、歴史を紐解いたり、ちりばめたりしたほうがよい奥行のある番組になったのではないかなと思う。
- ◎番組内ではかかるジャズが良い音で聴けることが出来て良かったと思う。実際の常連だった方や、関係者の方々のコメントなどはとても良かったが、中でも大谷能生さんの歴史をこめたコメントが良かったと思う。ただ、ジャズが順風満帆だった時だけでなく、ジャズがロックに押されて低迷してしまった際にお客様に来てもらうためにどういったことをしたのかなど、より具体的な苦労話をしてもらいたいのかと思った。番組内で5曲くらいかかったのだが、最初以外、曲目紹介がないのが気になった。
- ◎野毛の大変だった時代を知っているので、改めて野毛という場所の変遷をジャズを通して作っている良い番組であると思った。
- ◎普通に考えると、時系列な進行でもなく、主人公もいなくて、選曲もしぶくて分かりにくい、スピーカーを通して聴くのが無意味だと思ってしまいがちだが、それをわざわざやっているのが結果的にはとても良いと思った。そして、3世代にわたる店長の話が出たり、世代を超えた客や、フランスから客がきたりした話など、あまり説明が十分でないのに、それを想像でき、わかってしまう番組であるのがとても良かった。聴き終わると、心が豊かになった。
- ◎曲紹介をしないのと理由や、BGM を使わなかった演出意図については知りたいと思った。
- ◎マイクロフォンの説明を番組内でもっと触れたり、昔のものを最新の技術を使って、こんな風に再現していますということなどをもっと伝えても良いと思った。
- ◎地域の活性化に横浜という街を魅力的に思ってもらうために、もっと深掘って、こういった番組を制作しているという主旨を伝えても良いのかと思った。

◎登場していた皆さんが、ジャズも好きだし、ダウンビート愛もあると思うのだが、あまりべたべた感がなく、少し乾いた感じで、この場所をつないでいくよとスタンスがとても良いと思った。

◎ジャズは、ライブで聴くのが普通だと思うが、レコードで聴くのは、日本特有であるということあまり知らないと思うので、そのあたりをもっと、取り上げて良いと思った。

◎横浜には、こういった素敵な場所があることをこの番組を通してもっと伝えても良いと思った。

◎ナレーション担当の島袋さんの起用理由を知りたいと思った。

<局から>

◎この番組は、開局40周年でスタジオに設置した意見箱にスタッフから提案された企画を実現したものである。野毛には、こういった、ジャズという音楽文化があるということこの番組を通じて伝えられたのではないと思う。

◎収録機材についてであるが、店舗にあるスピーカー音をそのまま録音し、店の空気感をラジオで伝える意図で収録している。こちらでマイクを用意し、多数チャンネルのマイクを用いて臨場感を高める録音を行った。

◎やはり、歴史についても含め、もう少し苦労した時代の話などを入れられたら良かったが、70年のお店の歴史をまとめたものだったので、すべては詰め込むことができなかった。ただ、番組を通じてジャズ喫茶の存在を改めて注目させることが出来たのではないと思う。

◎BGMや曲紹介をしていないのは、出来るだけ、ダウンビートの空気感を伝えるためだったので、制作上、あえてしていないのが理由である。

◎島袋さんをナレーションに起用した理由についてだが、インタビュー対象が、男性中心であったため対比を出す目的で、女性の声を起用した。また、ジャズ喫茶の番組という主旨からも落ち着いたトーンの声でやっていただける方でもっとも合う方であったのが選定理由である。

以上、15時40分に審議終了、散会しました。

審議機関の答申または改善意見に：なし
対してとった措置及びその年月日

審議機関の答申または意見の概要：各委員の意見及び回答を概容でまとめ公表。
を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及びその年月日

- ①令和8年4月20日、04:55から3分間、当社で放送。
- ②書面にて自社内に備置き
- ③令和8年4月20日、当社ホームページに掲載予定。
(<https://www.fmyokohama.co.jp>)

その他の参考事項：なし

以上